

知をひらくソーシャルワーク実践へむけて

—構造的ソーシャルワークとエンパワメントの視点から—

○ 東北福祉大学 黒田 文 (会員番号 2095)

キーワード：構造的ソーシャルワーク、エンパワメント、当事者の知

1. 研究目的

本研究では、構造的ソーシャルワーク (Structural Social Work, 以下、構造的 SW と記す) とエンパワメントの考えにもとづき、当事者の知と制度的専門援助職者の専門知 (以下、「専門知」と記す) との関係性について考える。社会構造とは、力 (power、以下、パワーと記す) と抵抗 (resistance) の産物であり、その構図に対する理解がなければ、社会において支援を必要としている利用者への理解も社会関係も理解することはできないと考えるのが構造的 SW である。当事者と制度的専門援助職者の関係に社会的な構造がある以上、両者が依拠・生成する知についても同様に構造的関係が存在することになる。当事者主権や利用者中心という SW 理念に照らして当事者の知が尊重される一方で、構造的 SW の観点から知の関係性を精査しようとするならば、両者の知の関係についても SW が何を理解して、どのように向き合うかを構造的に考える必要がある。この問題意識にもとづき、本研究では構造的 SW とエンパワメントの観点から当事者の知への接近法について考察する。

2. 研究の視点および方法

社会構造に潜む力を理解することから出発すると、「専門知」にもとづくエンパワメントはどのような実践になるのかを当事者の知への接近法を中心に検討する。研究方法は文献研究である。

3. 倫理的配慮

本研究は文献研究であるため人間や生物等を対象にした際の倫理的配慮は必要としない。研究遂行に際しては、日本社会福祉学会倫理規定および研究倫理規定にもとづく研究ガイドラインを遵守している。本研究に関して開示すべき利益相反関連事項はない。

4. 研究結果

人種、性別、階級、宗教等を理由にして社会にはある特定の人々に対する差別が埋め込まれており、これらの力関係を助長し維持する機能が社会制度には存在する (Goldberg and Tully 2006; Middleman and Goldberg 1989; Moreau 1979; Mullaly 1993)。このため、社会構造／構図に対する批判的な洞察と検討がなければ、支援を必要とする利用者への理解、利用者との関係性に対する理解を深めることはできないと認識される。

当事者の知と「専門知」との関係を検討するにあたって、知は潜勢的なパワーを有するという理解が必要になる。知に潜勢するパワーについて論じたのはフーコーだが

(Foucault 1975=2020; Foucault and Hasumi 1977=2006)、この知のパワーが当事者の知と「専門知」との双方に在ると認識するならば、当事者自らの知を活かすため(enabling)には、双方の知の再割り当てが実行される必要がある(Milley 2019)。わが国でも一部のサービス提供システムにピアサポートの報酬化が導入され、当事者の知の割り当て、ならびに、当事者の知と「専門知」が協働する実践が求められている。ここでは、技術的合理性を是とする「専門知」と当事者の知との共存について検討が必須である。

5. 考察

知識や技術の厳密性にもとづく科学的知識をメジャーな知とみなしてきた「専門知」からみれば、当事者の知は低い評価をうけがちなマイナーな特性をもっているだろう。一方、利用者を中心にしたサービスの提供に価値をおき、その有り様を考える際に当事者の知の運用は非常に重要な意味をもつ。従来であれば低く評価されてきた知を再評価するには、差異として現れている知の価値や特性を消去して同化の方向へ進むよりも、むしろ、差異に対して積極的な評価を行うと同時に、差異を作り上げる基盤となっている概念に対して改めて問い直しを行うという作業が必要だと考えられる。当事者の知と「専門知」の差異を作り上げる基盤に対する問い直しには、科学性への問い直しや専門性への問い直しが含まれるだろう。利用者に必要とされるサービスを創出するには、これらの問い直しを通じて、従来のサービス提供の背景にある価値や構造を捉え直し、その変容へ向けて利用者と共に取り組んでいくことが求められる。

謝辞：本研究は JSPS 科研費 JP21K01996 の助成を受けたものである。

文献一覧(抜粋)

- Goldberg, G. & Tully, C. (2006) *The Structural Approach to direct practice in Social Work*. Columbia University Press.
- Middleman, R.& Goldberg, G. (1974)*Social Service Delivery: A Structural Approach to Social Work Practice*. Columbia University Press.
- Milley, K & Dubois, B. (2019) *Social Work: An Empowering Profession*. Pearson.
- Moreau, M. (1979) A Structural Approach to Social Work Practice. *Canadian Journal of Social Work Education*, 5(1), 78-94.
- Mullay, R. (1993) *Structural Social Work: Ideology, theory, and practice*. McClelland & Stewart.
- 中村和彦 (2017)「ソーシャルワーク実践理論再構成への素描」北星学園大学社会福祉学部北星論集 54, 33-47
- 西梅幸治 (2020)「エンパワメント実践における協働」高知県立大学紀要社会福祉学部編 70, 17-29.
- 田川佳代子 (2009)「構造的ソーシャルワーク理論形成初期の研究」愛知県立大学教育福祉学部論集 58, 39-44.